



# せうせい

120 | 全国曹洞宗青年会  
2003.2





## “ありがとう”の言葉で 真心の種をまきましょう

花の種等を次の内容で実費配布いたします。ご希望の御寺院様はお申し込みご利用願います。

### ●内容

文字等を見やすく、サイズをハガキ大に大きくいたしまして、花の種、甘茶ティーパック、三仏忌の説明文を詰めた状態で送付します。

### ●申し込み数量と費用

1口 10部単位（何口でも結構です）  
1部 100円

### ●申し込み方法

葉書、FAXまたはEメールにて、県名、寺籍番号、住所、寺院名、氏名、電話番号、希望個数等を記載してお申し込み願います。

### ●申し込み先

〒769-0210 香川県綾歌郡宇多津町1437 南隆寺内 大石 光明まで  
FAX 0877-49-3092

メールアドレス [kokibobabo@ybb.ne.jp](mailto:kokibobabo@ybb.ne.jp)

※お申し込み頂きますと、こちらから確認の電話、FAX等を致します。もし、数日内に確認の電話、FAX等がなければお申し込みが受付できていない場合がございますので、ご確認下さい。

### ●申し込み期限

平成15年2月末日  
配布予定 平成15年3月中旬ごろ

### ●配布方法

送料着払いにてお届けいたします。

### ●お支払方法

同梱の郵便払込用紙にてお願い申し上げます。



illustration / K.KONDO

全国曹洞宗青年会  
花まつりキャンペーン

# 花を咲かせましょう。

# そうせい

03.FEB

S O S E I

## 表紙が語る



川の温度より外気の温度が下がると一面がもやにつつまれる。「けあらし」と呼ばれる現象である。マイナス15度を下回るその寒気の中を二羽の鶴が行く。

日本で最大の野鳥と言われるこの鳥は見るものに鮮烈な印象を残す。その印象はやがて忘れがたいものとなり、多くの絵画や物語を産み、伝説を生んできた。

ある二月の早朝、静謐の波紋をあたり一面に広げながら、鶴は冬の芯に立っていた。

撮影/加藤 勝夫

## C O N T E N T S

### 4 平成14年度 禅文化学林 「今、ことばで伝えたい」

一道元さまのおもい、  
金子みすゞさんのまなざし—  
11月27日、駒澤大学で行われた  
対談をご紹介します。



### 8 環境問題のスピリチュアルな視座⑦

正木 高志

### 10 インターネットの世界をのぞいてみよう！ その21

### 11 お寺散策 福聚山 慈眼寺

### 12 特集 「禅文化学林」

当会募古事業の一環として、平成  
14年11月27・28日の両日、駒澤  
大学で開催された禅文化学林の様子  
を紹介いたします。



### 19 そうせい図書館

### 19 ピープル

### 20 SOSEI インターナショナル⑤

藤田 一照

### 22 ディスカバーヒューマンライツ⑥

見野 彰信

### 24 そうせいINFORMATION

### 26 賛助会員御芳名

### 27 そうせいサロン

### 27 遠山無限

池上 幸秀

### 27 エコクッキング

### 28 青年会モザイク

# 「今、ことばで伝えたい

—道元さまのおもい、金子みすゞさんのまなざし—



平成14年11月27日  
於・駒澤大学記念講堂

出席者  
大谷 哲夫 師  
(長泰寺住職、駒澤大学学長)  
矢崎 節夫 氏  
(童謡、童話作家)  
荒木 正昭 師  
(全国曹洞宗青年会顧問)

800年の時空を超えて膨大な言葉  
を遺された道元禪師。そして詩という  
世界でたくさんの人びとの心を動かした  
金子みすゞさん、今年の禅文化学林  
は、お二人の言葉の宇宙に思いをいた  
し、『永平広録』研究の第一人者・大  
谷哲夫先生と、金子みすゞさんの詩を  
世に広めた矢崎節夫先生にお話をし  
ていただきました(以下、敬称略)。

道元禪師ははじめて  
非言語の世界を言語で証明された

荒木  
言葉で伝える、これは頭でわかって  
いても難しい問題です。まず、大谷先  
生に道元様の想い、言葉をどうとらえ  
ておられるか、言葉の力、重要さをう  
かがいたいと思います。

大谷  
道元禪師は一二〇〇年にお生まれに  
なり、一二五三年に五十四歳の生涯を  
終えられました。この時代は一九二  
年に始まる鎌倉時代にあたり、日本の  
仏教が新しい時代を迎え、道元禪師も  
また、その一面を担ったのでした。道  
元禪師は、中国で本師と仰ぐ天童如浄  
禪師に出会い、帰国された年に『普勸  
坐禅儀』を書かれ、仏法が「只管打坐」  
すなわち、ただひたすら徹底的に坐禅  
することを置いて他にないことを、わ  
が国において最初に宣言します。道元  
禪師は坐禅という非言語の世界が現と  
してあることを、言葉をもって証明さ  
れた最初の人なのです。  
禅宗では「教外別伝」「不立文字」とい  
うことをよくいい、あたかも文字を無  
視するのではないかと解釈されがちで  
す。それも一面の真実ですが、実は禅

宗ほど書物が多い仏教はありません。  
当時の日本には悟りの概念がなく、道  
元禪師は『正法眼蔵』で、当時の日本の  
現代語をもって、非言語の世界に裏打  
ちされた悟りを説いています。さらに  
『永平広録』では、大仏寺を永平寺と改  
名するに際し、「天上天下 当処永平」  
と宣言され、自ら信じる仏法をまね  
く広めるために、『正法眼蔵』という言  
葉の世界で悟りの実態を示された。

金子みすゞさんは、私も大好きな詩  
人ですが、詩人道元禪師も、膨大な偶  
頌(漢詩)、そして感性溢れる和歌を  
遺しておられ、その言葉は禅修行者だ  
けでなく、全世界に伝わり問い直され  
ています。これは黙照禅という非言語  
の世界を言葉で残された道元禪師の功  
績が大きいと思います。

同時に道元禪師は「愛語」というこ  
とも書かれておられます。では「愛語」  
はどこから出るかといえは「愛心」か  
ら出る、「愛心」とは何かといえは  
「慈しみの心」を種子として育つてく  
る、これが道元禪師の言葉のとらえ方  
ということができると思います。

みすゞは「二つで一つ」を  
その詩で豊かに表現

金子みすゞさんは明治三十六年に生  
まれて昭和五年に二十六歳で亡くなっ  
ておられます。そして詩人として甦っ  
て二十年になります。大谷先生は今の  
世の中の雰囲気は鎌倉時代のような状  
況とおっしゃいました。戦後のあると  
きに忘れてきてしまったものを、今、  
思い出すことをしないと、人類は地球  
というお母さんの上におられないかも

**永平寺**  
お食事・お泊り・おみやげ

門前の宿 **井・上**

〒910-1200 福井県吉田郡永平寺町門前  
TEL(0776)63-3333(特) FAX(0776)63-3332  
フリーダイヤル 0120-139090

—木版・手摺の佛教書籍御経本—  
黄檗鉄眼版 **大般若波羅蜜多經** 全六百巻  
(転読用堅牢黄紙製出版元)

**陶貝葉書院**

〒604-0912 京都市中京区二条通水屋町西入  
TEL(075)231-0919 振替京都01000-0-755  
FAX(075)223-5829



巽谷 誓夫 師

昭和14年生まれ。長泰寺住職。永平書院大学学長。「訓注 永平書院」など著書多数。

「さびしいとき」では、わたしがさびしいときに「よその人は知らないの」「お友だちは笑うの」「お母さんはやさしくておられました。」

「わたしと小鳥と鈴と」の最後では、「みんなちがって、みんないい」とあります。これは、すべてのものが、あるがまま、光り輝いているという阿彌陀経の言葉にも通じます。



「わたしと小鳥と鈴と」の最後では、「みんなちがって、みんないい」とあります。これは、すべてのものが、あるがまま、光り輝いているという阿彌陀経の言葉にも通じます。

仏教的風土に根づく  
豊かな感性と「愛語」の心

個性とは、当たり前のことを当たり前にできて、さらにより創造性に富むことであって、人と変わったという意味ではありません。個性豊かな人は、プラスアルファをして喜びを得られる人だと思えます。道元禪師は当たり前のことを当たり前のこととしてしなさいと仰る。道元禪師はすごい宗教家ですが、偉大な教育者でもあると思えます。

今、教育の現場で困っているのは、ごく一部の学生たちの間に心の荒廃が進んで来ている現実があることです。情操教育が欠如してしまっただけで、そうすると言葉の荒廃が始まるんですね。

みすゞさんも当たり前のことしか書いていません。「浜の石の最後では、小さな浜の石がみんなして海を抱えている」とあります。これも

僕は「みすゞコスモス」にも書いてきました。みすゞさんの詩の思いと道元禪師の言葉がごだまし合うところがあるんです。

多口法衣佛具店

技の粹

株式会社 巽谷法衣佛具店

〒200-8586 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL: 03-5561-1111

〈梅花流法具指定販売店〉

法衣・袈裟・行敷・寺院莊嚴具・京仏壇・京仏具

安藤株式会社

本社 (〒535-3007) 京都市東山区白門前通化見小橋東入ル  
TEL: 0120-29-8161 (徒衣部)  
TEL: 0120-29-8165 (法具部)  
TEL: 0120-19-8168 (贈答部)

東京店 (〒105-0014) 東京都港区芝2丁目15番2  
TEL: 0120-3232-09

福岡店 (〒812-0036) 福岡市博多区上見町12-1  
TEL: 0120-2143-22



### 矢 藤 節 美 氏

昭和22年生まれ。童謡、童話作家。金子みすゞの遺稿を見つけ出し、世に広める。第12回赤い鳥文学賞受賞。「金子みすゞ全集」「ほくがいないとき」など著書多数。

打坐<sup>二</sup>であり修行している姿、それが悟りであるということですか。ただ言葉は限定性をもつていますが、

荒木 そうですね、それだけでは足りないんです。

私たちは知っている範囲を宇宙と錯覚しがちだが、知らないことのほうがはるかに多いことを知るといいうことでいいでしょうか。

言葉の力が注目されるなか、非言語の世界との調和が問われる

### 荒木

今、言葉、しかも詩のようにわかりやすく読める本が注目されていると思います。

### 矢崎

みすゞさんは平仮名で考える人であったと思います。ひとつの言葉でもいろいろな意味があります。そのなかで、一番自分の気持ちに合った言葉を使うというのには、平仮名で考えることなんだと思います。テレビの時代になって言葉の深さというものが失われた気がします。

### 大谷

それは現代人の言葉に「愛語」の心がなくなり、「愛心」「慈心」がとぎれたことの現れだと思えます。言葉は人間証明もできるが、誹謗も中傷も、喜ばすこともできる、そして言葉に酔うこともできます。そして言葉の便利さに溺れてしまい、言葉の便利さのみに

### 禅門引導香語集大全

## 月叟語録

吉留進堂和尚遺録

本書は、詩心玲瓏にして追眼円明なる著者の生涯作品を集大成したものである。

禅門待望の新式和文の引導香語集として、すでに出版された三冊の香語集に、未発表の作品百篇を加えてまとめられた。香語はいずれも伝統の型をふまえ、前人未踏の境地を開拓したもので、平易にして格調が高い。全編宗意透徹された作品群であり、詩僧である著者の禅の風光が現出した禅詩文学の珠玉集である。

「語録」の刊行にあたり、香語作品にはそれぞれ脚註が綿密に付けられ、読者の便宜が図られている。まさに新時代の香語集として寺院必携の良書であり、諸賢青年僧の香語作成の参考書として推奨する。

B5判特装 本文初頁 総ルビ付  
頒価一五〇〇円(送料一〇〇〇円)

申込先 〒三三七・〇〇一一  
栃木県佐野市大蔵町2975

### 興福寺語録刊行会

現金書留または振替用紙でお願致します。  
振替口座 〇〇160-1117531



依存してしまうときに、ある面で心の荒廃がはじまってしまうと思えます。祈るということもそうですが、日本人はかつて、非言語の世界があることをだれしも知っていました。それを忘れて去ったところから、言語の荒廃、心の荒廃が始まってきました。言葉に力を、といわれますが、そういうときに我々には非言語の世界があるということ、判断と認識しておかないといけません。

### 矢崎

高度成長期つてガンバリズムなんですね。相手のことを気にしなくていい。でも、みすゞさんは、相手も私なんです。言葉は確実に自分に戻ってくるということを意識しないとけない。

### 大谷

現代は先が見えない不透明感や妙な閉塞感があります。そうしたことを背景にしてやさしさの風潮が出てきました。その中で、学生は、私たちの問いに

矢崎先生は「宇宙・コスモス」ということも重要だと……。文学者の作品は「世界」ということが多いのですが、金子みすゞさんの場合はもつと広い宇宙観がないかぎり、みすゞさんの本当の素晴らしさを体験できないと思います。私たちは見えるものより見えないものが多いことを忘れてるんですね。

「蜂と神様」では、「蜂はお花の中に……そして神様は蜂の中に」とあります。つまり宇宙全体が自分の中にあるんですね。

仏教というのにも宇宙観だと思えます。多分、坐禅では、自分の中に宇宙全体が入ってくるのだと思うのですが、どうでしょうか。

### 大谷

言葉で表現すると、そういうことになるんでしょうね。「只管打坐」というのは悟りの世界の具現化ですから。坐禅の世界は瞑想と考えがちですが、そうではない、曹洞宗の坐禅は「只管



おん 正 昭 師  
全国曹洞宗青年会顧問

対して「微妙」というんです。「みみょう」ではなく。「く」とか「くの方」「く」的「く系」といった言葉、これは人に嫌われることを恐れる人たちが使う言葉です。相手に対してやさしさを、遠慮を表しているつもりなのでしょうが、私たちがとっては極めて「微妙な」ことにならぬ。これはほかし言葉なんです。断定ができない。私は、今、豊かさの中で、言葉の力が求められている。やさしさが求められていることに対して、かえって非常な怖さを感じることがあります。

純粹な感性と

大人の判断が問われる時代に

荒木

同じ言葉でも、語によって受入れ方が違うということもありますね。

矢崎

言葉は受ける人がどう受けるかは、あらかじめかせげません。相手の立場に立たないと、伝わらないのだからと思います。みずきさんは、わたしは偉くない、賢くない、そう思っているから何にでも感動できるんですね。道元禅師の歌を拝見しても、あの方は幼児の心をそのままもつていらして、そのまま感動できたのではないかと思えます。

大谷

みずきさんの感性なのでしょう。道



元禅師も非常に純粹な方で、ことあるごとに、感涙にむせぶと言っておられます。つまり何事にもたいして感動するたおやかな感性をおもちなんです。

矢崎

素敵な大人は、子どもの感性をもつていて大人の判断ができる人だと思えます。

大谷

道元禅師は矢崎先生がおつしやつたように素晴らしい教育者でもありました。むずかしいことを十分わかつていて、十人二十人を、あの時代にあの山奥で教育された。

矢崎

「愛語」の一つの力は、人の素晴らしいところを言葉で表現してあげること、嬉しさに出会えることだと思えます。「嬉しき」飛ばしをしたいですね。

大谷

道元禅師は「向かいて、愛語を聞くは面を喜ばしめ心を楽しくす。向かわずして愛語を聞くは、肝に命じ魂に命ず」と言っておられます。この愛語の心を回復したいと思えます。

荒木

難しいお経をやさしく説くのは難しい、道元禅師の言葉は、それ自体が難しいですね。

大谷

それは坐禅をしていないからです(笑)、という終わってしまいますが、実は、それはこういうことなんです。道元禅師の言葉を現代語訳すれば、「わかる」という思い込みや錯覚があります。でも、道元禅師は、はじめに坐禅しなさいと言っています。「正法眼蔵」は頭で理解すればいいと思っている方がおられます。しかし、「眼蔵」は哲学書でも単なる思想書でもなく宗教の書です。悟りは頭だけで考えて単に言葉の上で理解してもだめなのです。しかし、その真髄は言葉をもつて詰めて詰めていききったところ、そしてそこから一歩飛び出したところにあるんだと思えます。だから「愛語」という言葉があるのだと思えます。

荒木

最後に青年僧侶にアドバイスを

矢崎

お寺は宗教浴をするところで、元氣になつて帰つて来る場所にしてほしいですね。それと、みずきさんのようにやさしい言葉で書いたものもあつてほしいと思えます。感性を豊かにし、大人として、それを言つてほしい。


荒木

お年寄りだけでなく、若い人、子ど

も立ち寄れるお寺。お寺は古がり屋であり、新しがり屋であつてほしいということでしょうか。

大谷

私を含め曹洞宗の坊さんは、言葉で表現する世界と非言語の世界を調和させるという非常に難しい立場にあります。今後は、禅の世界を日常的な言葉、会話で発信しなければなりません。今日はありがたい機会でした。私たちはこうした機会をもらえて言葉の包容力のあるやさしさ、そして言語的やさしさを学んでいかなければなりません。また、それ以上に、「正法眼蔵」「永平広録」の上堂の世界、道元禅師の詩文の世界というものを透過して、そこから出発しなければならぬ、そうしたことが、今問われていると思えます。



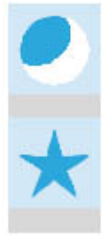
SUIUNDO

住持 具 兼 理  
副住持 具 兼 理  
住持 具 兼 理

翠雲堂

本店 東京都台東区元渡草4-9-14 TEL03(3842)0201  
URL: <http://www.suiundo.co.jp>

支店 稲荷町店・稲荷町駅前店・上野駅前店・等々力店  
池袋店・横浜店・大宮店・船橋店・松戸工場



# 環境問題のスピリチュアルな視座

第7回

正木 高志

1946年生まれ。東京教育大卒。60年代なかばからインドを旅し、80年に帰来。90年から91年にかけてモンタナ州立大学に招聘されて環境倫理学を講義。著書に『スプリング・フィールド』（地球社刊）、「木を植えまじよう」（南方新社刊）、熊本県菊池市在住

## いやし・成熟・超越

文明は森を破壊して成長する。

農地を得るために木を切り、都市を建設するために森林を破壊する。だから文明はその黎明期から環境問題をひきおこす種子をはらんでいたのである。メソポタミアでもエジプトでも、インドでも中国でも、文明はいつも森の周辺に誕生し、文明が栄えたあとには砂漠が残された。

産業革命以後、環境破壊は急激に加速して、二〇世紀には幾何級数的に拡大した。同時に物質文明の経済至上主義は、森林破壊同様、人間の精神をも破壊した。

### 稲刈りのフシギ

ぼくは二〇年ほど前から農業をはじめた素人百姓だ。でもいまは曲がりなりにもお茶の栽培だけで暮らしている。純農家である。ただしあまり働かない。農繁期というものがあるにはあるが、極端に短い。たまに畑に出ると村人が「マサキさん今日はなんごつな！」と挨拶をする。熊本弁で、何事が起こったのですか？という意味である。飢え

ぬほどに働く。そこが本物の農家との違いだ。農家としては下下の下の下。万年初心者である。

田を一反ほどつくっているが、毎年収穫時期がくるたびに感慨をもよおすフシギが二つある。一つは春にまいた二キロの種籾が、秋には五百キロにもなることだ。イエスキリストは五つの大麦パンと二匹の魚を五千人の大衆に分け与えて全島を十分に満足させたというが、それとおなじ奇跡がここにも起きているのである。

もう一つは収穫を終えたあとの田だ。稲刈りはバインダーという小さな機械でやる。四〇列ほどある畝を両端から一列ずつ刈り取ってゆく。フシギな感慨にうたれるのは最後の列を刈り終わった瞬間だ。

五月に田植えをしてから、ぼくたちは毎日水を掛けたり引いたり、虫を取ったり、病気にならないよう用心し、夏の暑い盛りには何度も草取りをして、大切に大切に田んぼを守ってきた。子供や犬が田んぼにちよつとでも入ろうものなら、大声でどなって追い払う。

自分たちが入るときにも細心の注意を払う。

そうやって聖域のように守ってきた田が最後の一行を刈り終わってきた瞬間、縦横に走り回っても、車で侵入しても構わない野原に変化してしまうのだ。三列でも二列でも、畝が残っている限りその自由はない。最後の一行を刈り取ってしまった瞬間、自由自在になる。それを見て毎年ぼくは、「ああ、解脱というのはこんなふうになることなのだろうなあ」と思う。

### いやし、成熟、超越

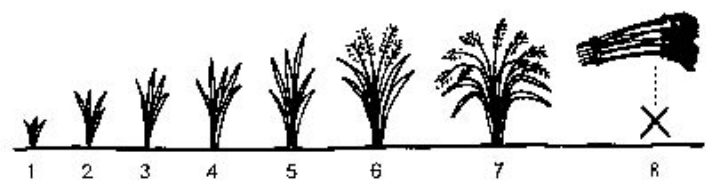
もちろん、収穫されるためには、稲は十分に成熟していなければならぬ。熟れていない稲を刈り取ることはできない。成熟が収穫の条件である。

そのように解脱の前に人は人格的に十分成熟していなければならないはずである。(「解脱」はサンズクリット語で「ニルヴァーナ」。直訳すれば「非生」だ。(生)つまり現象世界を超越することである。超越するためには成熟しなければならない。その成熟へのプロ

セスが修行だ。

米づくりの過程を描くと下図のようになる。

これにスピリチュアルな成熟のプロセスを重ねると、左のように図式化することができよう。Sは修行のスタート。Gは人格的な成熟のゴールである。Zは現象世界を超越した究極の悟りを表わす。



Z ↑ G

S →



さて、ここでぼくたちの現実を目を向けよう。いまぼくたちは環境を破壊しすぎたために苦しんでいるのである。環境を破壊した原因は異常に肥大した自己中心性と貪欲だ。モノ狂いした心が野牛のように暴走して環境を破壊し、自分自身を傷つけている。苦しみの中を抜くためには、その心を制御しなければならぬ。

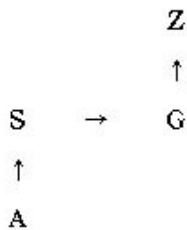
このぼくたちのテーマは霊性の地図のどこにあたるのだろうか？

S ↓ Gにあたるのだろうか？

それともG ↓ Zにあたるのだろうか？

いやいやそうではない、S ↓ G以前の問題だ。

ぼくたちは健全な者が運動選手としての高度なプレーを目指すようにではなく、痛者がいやしを求めするように、精神世界に救いを求めているのである。そうだとすれば精神世界の地図にもうひとつのカテゴリーがつけ加えられなければならない。



このとき、A ↓ Sをいやしのプロセス、S ↓ Gを成熟のプロセス、G ↓ Zを超越のプロセスと言ったことができる。いやし・成熟・超越の三者はおなじ精

神世界という言葉で語られているが、それぞれまったく次元の異なるカテゴリーに属している。成熟は仏教でいう縁起のパラダイムに、超越は空観のパラダイムに、そしていやしはそれ以前の無明パラダイム世界に属している。

### トリック

今日では世界中のさまざまな神秘主義の情報が氾濫しているために、ともするとそれらを混同混線してしまいがちだ。しかし、ぼくたちは自分自身の問題の所在を正しく認識して、カテゴリーエラーをおかさないようにしなければならぬ。

例えばAに在るものにはGや、ましてZという目標など持ち得ないのであって、Aが必要とし目指すべきはS点なのだ。そうしてはじめて問題に現実的に対応することができる。

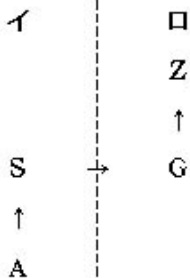
繁榮に酔い、足を知らず、神を畏れず、欲望のままに生き、自ら破壊した環境のなかで、ぼくたちは心身ともに痛んでいるのである。だからぼくたちの精神性のカテゴリーはA ↓ Sなのだ。Aにあつていやしと救いを求めているのだ。米づくりにたとえるなら、種をまいてから田植えるまでのプロセスである。

まず目指すべきはS点だ。S点に立てば、Gへ向かって歩きはじめることができる。Gとは遙かに遠く高い目標だ。インスタントに到達できるようにな

境涯ではない。しかしそれで少しも構わない。Gにあこがれ、S ↓ Gの進化の出発点に立つことによって、状況は確実に回復しはじめるだろうし、環境も回復にむかうはずである。

ところが今日のいわゆる精神世界では、三昧や解脱といった極端な手柄がいつも安易に語られている。そして心の浄化や制御のプロセスは無視される。例えば、足の骨を折ってリハビリをしている人が、オリンピックのマラソン選手のための高地トレーニングを真似しようとしても、できるわけがない。逆に病気を悪化させるだけである。彼にとつて必要なのは立ち上がり、手措に掴まっつて、一步一步歩く訓練なのだ。そうしてはじめて状況は改善される。

図のS ↓ Gの中央に点線をいれてみよう。



点線を谷にしてページを折り、イとロを合わせると、A ↓ S / G ↓ Zと一直線になり、S ↓ Gのプロセスが見えなくなってしまう。今日の精神世界ではこのようなトリックが無自覚に、あるいは自覚的になされているのであ

る。病的で自我さえ確立されていない少年たちが解脱だ三昧だとおかしなことを口走るのはこのためだ。

### 初心者

ぼくは大地を遠く離れた都市生活者として生まれ育ち、そこから出発して土地を開墾し、農業を学び、自給自足の生活をするようになった。だから農業者としてはいまだ初心者のままだ。

同様に精神性においても、宗教から遠く離れてしまった物質社会の現代人として生まれ育ち、そこから荒地を開墾するようにして心を耕し、宗教を学んできた。だから修行者としてもいまだに下下の下の下の初心者だ。

でも、決して開き直るつもりはないのだけれど、それはそれで仕方ないし、それでいいとも思っている。現代社会では多くの人々が、ぼくと同じように、宗教の「し」の字も知らないところから出発して、心の牛と取っ組み合いをはじめなければならないのだから。

行き暮れた文明の閉塞状況のなかで、今日の若者たちは途方にくれて立往生している。だが、天に帰依し地に帰するならば、どんなに小さくても、どんなに貧しくても、ぼくたちは天と地の光と生命を宿して生きることが出来るのだ。春一番が吹き過ぎた朝、樹々の葉の無数の水滴が、陽光を映して、きらきらと輝くように。



◆今話題のインターネットとは◆

# インターネットの 世界をのぞいて

## みよう!

(21)

誰もが携帯電話を持つ時代になりました。いつでもどこでも情報  
が得られる携帯電話の端末からインターネットに接続しホームペ  
ージを見ることが出来ます。今回は宗門では珍しい携帯電話対応の  
ホームページを運営されている四国管区教化センターの試みをご紹  
介いたします。

## 携帯電話端末を利用したホームページ閲覧

近年の情報化時代の発展はすさまじいものがあり、特  
にパソコンや携帯電話の急速な普及により、あらゆる情  
報が即座に得られるようになってまいりました。それに  
伴い、宗門の中でもこの情報化時代に即した布教教化の  
あり方、情報発信の形態も検討されてまいりました。

勿論、私達若い宗侶においては「慕古」の実践、真実  
である本物の古典をお慕い申し上げ実践していくことが  
第一であります。社会に目をむけたとき、特に若い世  
代における無宗教、既存仏教離れは急速に進んでおり、  
現代社会の中でその若者とともに生活をしている私達  
は、悩みを抱える若者のニーズにこたえるだけでなく、  
自らが先に社会に向けて情報を発信し、生活のあらゆる  
ところに宗門の教えが介在するように考え行じていかね  
ばならないのではないのでしょうか。

当四国管区教化センターでもそのひとつの方法とし  
て、ホームページ開設は懸案でありました。現代の若者  
の生活形態を考えてみると、曹洞宗の教えが書かれた  
難しげな本を書店で買ってまで読むということは皆無に  
等しいと考えられます。書店で書籍を購入したり、図書  
館で専門書に親しむような既に興味を抱いている若者よ  
りも、「宗教って?」「曹洞宗って?」「坐禅って?」と  
いう無関心な若者を対象に、何気なく、たまたまそんな  
情報の一端にふれられる、電車のなかぶり広告のような  
発信形態を考えてきました。

そこでホームページ開設にあたって第一に考えたこと  
は、わざわざパソコンの前に座ってパソコンを立ち上げ  
なくても、移動中の電車の中、待ち合わせの待ち時間な  
どの、時間潰しの間にでも何気なく情報を拾えるような  
ホームページにしたいということでした。それが携帯電話  
対応のホームページ開設となりました。

携帯電話対応ホームページの問題点としては情報量を軽

くしなければならぬことが一番です。その為、視覚的  
な情報が少なくなるので飽きやすいように思いますが、  
カメラ付携帯も増えてきましたので視覚的効果も簡単に  
取り入れられるようになって思われます。現在は管内  
のイベント情報ははじめ、テレホン法話をもとにした  
600字程度の法話などを発信しておりますが、今後は更  
新の回数を増やしてたくさんの情報を常に提供できれば  
と考えております。

また、各御寺院様はもとより四国地区内の各宗務所、  
曹洞宗青年会、曹洞宗婦人会、その他関係諸団体との相  
互協力の一助ともなりうる情報交換の場としてPC版の  
ホームページを現在作成しております。

### ◆曹洞宗四国管区教化センター

URL <http://www7.ocn.ne.jp/%7Ekyoka459/>

全国曹洞宗青年会ホームページ「般若」では、全国の  
坐禅会情報を掲載いたしております。この中には、現実  
と異なる情報（主催者の名称の変更・開催日や時間等  
の変更・指導者の変更を必要とされるものなど）が存在し  
ているものと思われれます。ご確認いただきまして、変  
更・不都合な点がございましたら左記までご一報いた  
だきますようお願い申し上げます。

なお、坐禅会の新規登録やホームページリンクのご依  
頼に関しましては下記までお知らせください。

### ◆全曹青ホームページからの問い合わせ

<http://www.sousei.gr.jp/fom.html>

または、

〒849-4251 佐賀県伊万里市山代町桶久360(本光寺内)

パソコン通信研究委員会委員長 小島 宗彦

E-mail [sogen@onkoji.net](mailto:sogen@onkoji.net)

FAX 0955-28-0272

寺院用仏具・仏壇・製造販売  
曹洞宗梅花流法具販売指定店



# ほう 放 光

本店・工場  
新潟市  
川越店  
高崎営業所  
長野営業所

〒940-0825  
〒950-0941  
〒350-0036  
〒370-0046  
〒380-0911

新潟県長岡市高知町617番地  
新潟市女池2丁目2-11  
川越市小仙波2丁目20-1  
群馬県高崎市江木町1179-2  
長野市稲葉1980-1

☎(0258)33-5644  
☎(025)280-1550  
☎(0492)27-7666  
☎(027)324-3721  
☎(026)222-3811

# 福聚山 慈眼寺

「野崎観音」で有名な慈眼寺は山と緑と人情豊かな大阪河内に位置し、近松門左衛門「女殺油地獄」・近松半二「新版歌祭文」・落語「のぎまゐり」・東海林太郎「野崎小唄」などの作品の舞台ともなっている。

## ◆◆◆日本の鹿野苑(ハラナ)、野崎の地に

福聚山慈眼寺は通称「野崎観音」で知られる。その昔、奈良時代に来朝したインド僧が「野崎の地はお釈迦様が初めて仏法を説いた鹿野苑(ハラナ)に良く似ている」と行基菩薩に申し、それを聞いて感銘した行基が白樺で観音様のお姿(十一面観音)を刻みこの地に安置したという。一説によれば「観音像は行基菩薩の手彫りで長谷(奈良県)の観音像と同木」だという(慈眼寺の史書「光割牌」)。平安時代に攝津江口(現東淀川区)の長者(江口の君)が長の患いに苦しんで大和の長谷観音に病氣平癒を願ったところ河内の福聚山は長谷と同じ霊場である故の家に近いからそこに参詣するようにとの夢告を受けた。早速慈眼寺に七夜籠もって祈るとたちまち難病が治り、長者はそこに堂宇を建立したという。このような寺伝から寺では開基は行基、中興の祖を江口の君とする。

その後、幾多の戦乱のため荒れはて、本尊の観音様だけが残った。長い間、



御本尊十一面観世音菩薩像

小さいお堂のまま奉られていたが、元和二年(一六一六年)春藤和尚がこのお寺を復興し、現在に到っている。

## ◆◆◆大阪庶民の香のレクリエーション「のぎまゐり」

東海林太郎の「野崎小唄」や、浄瑠璃の「お染久松」等で知られる「のぎまゐり」は江戸時代の元禄年間から盛んになった。「無縁行」ともい、人が生き

ていく上で知らず知らずのうちに世話話になった有縁無縁のすべての物に感謝のお経を捧げる行事である。釈迦の降誕会がある5月はじめの10日間だけでも全国各地から15万人を超す参拝客でにぎわう慈眼寺の一大イベントだ。

昔から野崎の地は水路根屋川を船で行けば大阪近郊から日帰りできる格好の行楽地として知られ、香花が咲き「のぎまゐり」が始まると大阪の人々はいききに船や徒歩で繰り出し大阪人特有の口の悪さとユーモア、軽妙な掛け合いと喧嘩をしながら喧嘩参りする道中は、落語の「のぎまゐり」で



本堂



▲のぎまゐり 5月1日~10日  
元禄時代より伝わるお祭り。お寺までの参道には露天が並びイベントもあって全国各地からの参詣者で賑わう

もよく知られている。

京都祇園の八坂さんの

おけらまゐり  
四国讃岐の、金比羅さんの  
さやばしのいきちがい  
大阪野崎の、観音さんの  
のぎまゐり

が西の三喧嘩参りと言われ、土手と船とで面白おかしく身振り手振り喧嘩する様は上方のお笑いの原点とも言われる。

のぎまゐり期間中は参道には三百年を超える露天が並び境内では縁日や大追芸、落語、歌舞伎の奉納も行われる。緑の百撰にも選ばれた野崎観音の山と緑と人情はふるさとに帰ったような心の安らぎを与える。

## ◆◆◆教化活動

先代の十九世尾瀧一峰和尚は、日頃からどんな方でも気軽にあがっていただきお参りしていただけたらいいというお誓願があり、一般在家の方々への教化活動に特に力を入れていた。その姿勢が現在も受け継がれている。写経会やボランティアの方々の掃除が盛んに行われており、毎週日曜日の朝の坐禅会には約四十人もの方々が常時集まって坐禅を組まれているというところからも先代の思いが伝わってくる。帰

## ▶江口の君堂

本堂隣には当山中興江口の君がまつられている。美しく彩色された官女風の姿で、りんとして座しておられる



## アクセスデータ

電話：072-876-2324

FAX：072-876-2373

所在地：大阪府大東市野崎2丁目 7-1

## ●交通

JR学研都市線野崎駅下車徒歩8分  
JR大阪駅から約50分  
車：国道170号線旧道、野崎を東へ  
駐車場 20台

●ご利益は、開運招運・厄除け・縁結び・安産・子授け



特集

# 禅文化学林

# in TOKYO

全曹青主催の平成14年度・禅文化学林が、今年は駒澤大学記念大講堂と曹洞宗檀信徒会館の二会場で十一月二十七日・二十八日の両日に亘り開催されました。その様子を紹介します。



# 11月27日 駒澤大学大講堂

## 禅文化学林第1日



▲「チケットまだございます?」「はい、ございますよ!」朝早くからチケットを取りに来て下さいました



▲しばし休憩、熱かい甘茶を楽しむ参加者



▲待ちに待った開場!お客さんが入場すると同時にスタッフにも緊張感が走る



▲「AIKI」の上映会には天願監督もかけつけていただきました

▲当日は駒澤大学竹友寮の学生さん達にも  
応援してもらいました



▲大谷先生ノッテきました! 思わず話に力が入ります



▼対談では、荒木全曹青顧問がコーディネーターとなり、大谷先生と谷崎先生が熱いトークを展開されました



▲当日は書籍販売コーナーも設置された。書籍コーナーで本を手にとって吟味する参加者



▲熱心に対談に耳を傾ける参加者。パネラーの熱いトークに観客も力が入ります



▲池上幸秀全曹青会長の挨拶

今 回の全曹青禅文化学林は、高祖道元禪師奉賛七五〇回大遠忌慕古事業の一環として駒澤大学記念大講堂と曹洞宗檀信徒会館の二会場で行われ、十一月二十七日・二十八日の両日に亘り開催されました。

初日の会場は駒澤大学記念大講堂において全国より参集された全曹青会員並びに一般参加者約七〇〇人が大講堂を埋めました。午後一時十五分より司会を高原淳尚事務局長が努め、山口英寿副会長が開会を宣言。つづいて池上幸秀会長が「禅文化学林は一般社会との布教の接点として全曹青が年に一度開いている大会です。今年も、道元禪師大遠忌の年に当たり、道元様の言葉の宇宙と、金子みすゞさんの言葉の宇宙を皆様にご紹介いたします。このお二人の心の宇宙の旅に、どうぞこれから旅だつて下さい。」と開催の挨拶をしました。

第一部、対談・「今・ことばで伝えたい」〜道元禪師のおもい金子みすゞさんのまなざし〜が、駒澤大学学長・大谷智夫氏と、金子みすゞさんを世に紹介した矢崎節夫氏の対談で、コーディネーターを全曹青顧問・荒木正昭師が努めて行われました。対談の詳細は本誌4頁から8頁までに掲載しております。

第二部「AIKI」の上映会が三時より行われました。上映に先立ち、監督の天願大介氏が、「十年前に車椅子の男性が日本の古武術、合気柔術の黒帯となった実話を題材にして映画にしようと考えていました。それと共に、身体に障害を持つ人達の生活の現実を映画にしたい」と思いました。リアルな映像に仕上がっております。どうぞ、お楽しみ下さい。」と、挨拶されました。

大懇親会



▲左から大谷学長、有田宗務総長、乙川人事部長のお三人も御来場下さいました

食事は、立食形式で華美にならないよう気を付けました



▼パーティーの席上、こうしたエアポケットはしばしば見られる



▼当日の威儀はスーツ、改良衣、長作袴衣の順番でした



▲はるばる北海道から御参加下さった大先輩



▲懇親会には約250名が参加しました



▲「涙をふいて〜」三好鉄生さんのミニコンサート。大迫力、そして大合唱へ



▶ビールピンは両手で持つのがマナー?



▶大谷学長にも一言頂戴いたしました



▶ワインボトルの場合には片手で持つてもよい?



▲アトラクションの様子  
写真左の人のみチヨキ、あとはパー



▶有田宗務総長に挨拶をいたしました

「涙をふいて〜」三好鉄生さんのミニコンサート。大迫力、そして大合唱へ

食事は、立食形式で華美にならないよう気を付けました

パーティーの席上、こうしたエアポケットはしばしば見られる

当日の威儀はスーツ、改良衣、長作袴衣の順番でした

はるばる北海道から御参加下さった大先輩

懇親会には約250名が参加しました

ワインボトルの場合には片手で持つてもよい?

アトラクションの様子  
写真左の人のみチヨキ、あとはパー

有田宗務総長に挨拶をいたしました

大谷学長にも一言頂戴いたしました

有田宗務総長に挨拶をいたしました

有田宗務総長に挨拶をいたしました

禅文化学林レセプション挨拶

宗務総長

有田 恵宗 老師

私阿祖のお示しを、広く一般の方々にもお伝えできる絶好の機会であると存じます。

今後とも、青年会におかれては、こうした意義深い機会を捉えられまして、さまざまな活動にご尽力いただくとともに、宗門の次代を担う宗侶としての自覚を更に強めていただきますよう、ご期待申し上げます。

また、大本山永平寺、大本山總持寺のご後援、更に今日の会場をご提供いただきました、駒澤大学、地元東京都宗務所、曹洞宗婦人会の皆様方のご協力、並びに、禅文化学林開催に携わられた関係各位のご尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

本日、駒澤大学記念大講堂におきまして、駒澤大学学長、大谷哲夫先生、童謡詩人であられる、矢崎節夫先生より、サブテーマとして掲げられております、「今、ことばで伝えたい。道元さまのおもい、金子みすゞさんのまなざし。」にかかわる、ご講演があったのでございますが、公務のため、拝聴することができませんで、誠に残念に思っておりますが、阿先生からは、禅文化学林のこうした趣旨に沿った、有意義なご講演を頂戴したと承りました。誠に有

引き続き駒澤大学大講堂から道を隔てた駒澤大学深沢校舎に場所を移して大懇親会が開催されました。懇親会には宗務総長も駆けつけて下さり、錦上花を添えていただきました。全国

から集まった会員、OBの大先輩などと和やかに懇親を深め、特別ゲストとしてお呼びした歌手の三好鉄生さんの迫力あるミニステージやじゃんけん大会などで大いに盛り上がりました。

宗務総長の有田でございませう。一言ご挨拶を申し上げます。

私どもの宗旨は、申し上げるまでもなく、お釈迦さま、道元禪師さま、瑩山禪師さまの有り難いお示しに基づくものでございますが、坐禅を中心とした実践行であるといえるかとも存じます。

曹洞宗全国青年会主催により、高祖道元禪師七百五十回大遠忌を奉讃申し上げての平成十四年度禅文化学林が、本日盛

その実践行を為すうえでは、どのような素地を、自らが求め、またそれを培っていくのか。ということが、大変重要なことであると考えております。

こと、心よりお祝いを申し上げます。また、大本山永平寺、大本山總持寺のご後援、更に今日の会場をご提供いただきました、駒澤大学、地元

こうした意味からも、青年会が主催される禅文化学林は、自己の研鑽の場として、も、更に、一

## 分科会

▶▶ 第一分科会 増田老師の実践に基づいたお話を参加者は熱心に傾聴していました



▲「分科会」に先立ち挨拶する池上会長



▲第一分科会のパネラー



▲第二会場ではパソコンを使ってのプレゼンテーションがあった

▲自らの布教教化活動を基に宗色のあるべき姿を熱弁される増田老師

第二日目は、十一月二十八日、十時より、曹洞宗檀信徒会館において「分科会」が開催されました。

禅文化学林の二日目は約二六〇人の参加者を得て、三つの分科会で講演、討論が行われました。その抄録を掲載します。

### 第一分科会

#### テーマ

「地域社会での布教教化の実際を探る」

「青年僧侶は、今、どこから」

何を始めたらいのか

講師の増田友厚老師は、自坊で、又は、地域でたくさんの人々とさまざまな行持を実践してきております。お寺での坐禅会、写経会、子供勉強会、村ぐるみの観音大祭などを始め、いわゆる「荒れる少年たち」との学習会、老人ホームでの寺院ボランティアへの参加等、基調講演では実践に裏付けられたお話とともに、スライドを使い、日常活動の一端が紹介されました。また、青委員会からの報告、提言も合わせて行い、今日の地域社会での布教教化について考え、学ぶ意味あるひと時を共有しました。

### 第一分科会 基調講演要旨

「七百五十回大遠忌を機に、学んで刻んできた有り様を、自らの基盤に拠り実践に転化を」

講師 長野県佐久市

大林寺住職 増田 友厚 老師

「坊さんはいつ涙を流すのですか。」先般、ある病院関係者から問われました。云い換えてみるなら「現代社会での僧侶の役割は一体何ですか。そして、その役割を果たしておいでですか。」という重い問いであったのです。私たち

はどれほど気付いているでしょうか。児童虐待、不登校、ひきこもり、自殺者の増大、そして淋しいお年寄りたちなど、助けを求めて得られない人びとがたくさんいることに。こうした人びとに寄り添い、共に歩むことが求められているのです。そのためには、今、自分の生きているこの地域の檀信徒、また、人々は毎日どんな思い、願いの中で暮らしておいでなのかを充分に受け止めることのできる感性を耕すことです。肌で感ぜられる自分であることです。

本年は、道元禪師七百五十回大遠忌を迎えました。禪師は「正法眼蔵隨聞記」の中、西川の僧の問いに答えて「私自身の仏道修行は、郷里で生きる悩み多き人々と共に歩み救わんがため。」と明確に示されておられます。大遠忌にあたり私たちは慕古心を再認識してまいりました。これからの五十年は、学び刻んだことを、日常の有り様の中で実践転化すべきときです。そして最終的に立つべき基盤は自分自身の足元です。一つのマニュアルによるのではなく、自らの感性を磨き、人びとの心を肌身で感じ取り、地域の人びとと連携し、寄り添って共に生きていくことが求められていると思います。

### 第二分科会

#### テーマ

青少年教化用伝道句集の

製作を参加者とともに

「共感できる想いをわかりやすい言葉で」

青少年教化研究委員会

青少年教化研究委員会は、昨年度、はじめて取り組んだ伝道句集「君だけじゃない」は約五五、〇〇〇部を頒布しました。今年も第二弾の製作を予定しています。本年度の大まかなテ



▲宗門護持会会長 前長崎県島原市長 鐘ヶ江首一氏



▲「いいのか、悪いのか」を思う  
これこそが宗教に残されている領域です



▲会場では参加者のするどい質問が飛びかった



ん〜、なるほど！

▲写真家伊藤勝治氏の  
説明（耳を傾ける参加者）



▲悩み多き若き宗門僧侶に喝を入れていただきました

### ▼第三分科会

#### ●テーマ

「宗門の未来を探る」

「僧侶の目から見たら…」

社会（檀信徒）の目から見たら…

基調講演の後、参加者と活発な意見交換がもたれ、宗門僧侶が抱える苦悶、不安を述べ合い、今後の問題提起としました。

#### 「社会の目から」（要旨）

宗門護持会会長・前長崎県島原市長

鐘ヶ江首一氏

昔は道を求めるために僧侶になったが、現代は僧侶であるが故に道を求めるという時代になってきました。本来あるべき僧侶の生活からかけ離れたところがあるなかで、ジレンマに陥っている方が少なくないのではないのでしょうか。若い皆さんは、社会を代弁し、宗門のゆるやかな改革、

マは「いま、元氣と勇氣をあなたにく太陽はあなたに向かつて輝いている」。

句集は十二句を作り、それぞれにマッチした写真と組み合わせますが、第二分科会では写真家・伊藤勝治氏にご協力いただき、一般会員のみなさんに候補作一句の製作過程を体験していただきました。

参加者の皆さんにはあらかじめ、候補となる文章を考えていただき、会場で検討しました。検討の結果、次の句が候補となり、写真を選び、レイアウトのタミーも検討しました。

「君の心をのぞいてごらん。目標に向かった君がいる。悔し涙を流した君がいる。そして次のスタートを切る君がいる」。

寺院経営の近代化、僧侶の資質の向上に、より一層尽くしていただきたいと思えます。これは先人の心と業續を共有できる曹洞宗の伝統を充滿していけばできることと思えます。

#### 「僧侶の目から」（要旨）

大本山永平寺人権擁護推進室 兼

国際部主事

南 直哉師

今回の大遠忌事業の重点は、建築と法要でした。しかし、この二つは、全曹僧の活動の主題にする必要はないし、今後五〇年を考えるなら、しないほうがよい。今後の宗門にとって大切なのは、宗門を社会に開くことであり、ここに青年会の使命があると、私は思います。それは、ボランティアなど、社会への直接的な働きかけと共に、宗門の教えを、どう現代社会に位置付け、いかなる言葉で説くのかを考えることです。例えば、坐禅と「正法眼蔵」を、今後宗門はどの位置付け、取り扱っていくのか考えることは、極めて根本的な問題であり、青年会の発言を期待します。

十二時、「全体会」が行われ、それぞれの分科会の代表者が研修の内容を報告をした。

そして、荒木正昭顧問より二日間に亘る禪文化学林の総括を、「私も昨日から幾つかの新たな発見がありました。皆様それぞれ二日間に亘って肌で体験し、学んだそのままが総括です。」とまとめられました。

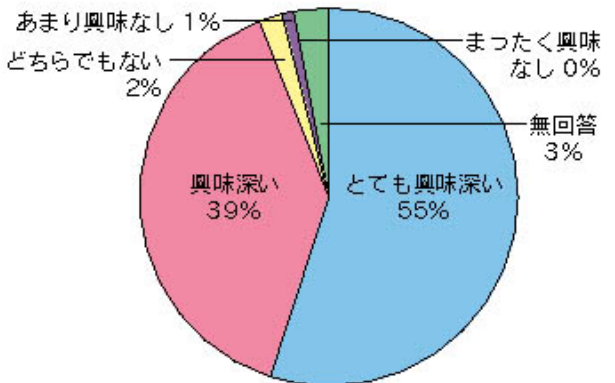
最後に白井應隆副会長が閉会の宣言をし、二日間に亘る禪文化学林の全日程を終了しました。



Voice

- 1、大谷哲夫氏と矢崎節夫氏の対談について
  - 1-a 対談について下記の当てはまるものにチェックをしてください。  
 とても興味深い内容だった  興味深い内容だった  どちらともいえない  あまり興味をひかれなかった  全く興味をひかれなかった
  - 1-b 上記で「とても興味深い内容だった」「興味深い内容だった」とお答えした方におたずねします。具体的にどこが良かったですか。
  - 1-c 上記で「どちらともいえない」「あまり興味をひかれなかった」「全く興味をひかれなかった」とお答えした方にお尋ねします。興味をひかれなかった理由は何ですか。
- 2、「AIKI」映画上映
  - 2-a 映画の内容について、下記の当てはまるものにチェックをしてください。  
 とても興味深い内容だった  興味深い内容だった  どちらともいえない  あまり興味をひかれなかった  全く興味をひかれなかった
  - 2-b 上記で「とても興味深い内容だった」「興味深い内容だった」とお答えした方におたずねします。具体的にどこが良かったですか。
  - 2-c 上記で「どちらともいえない」「あまり興味をひかれなかった」「全く興味をひかれなかった」とお答えした方にお尋ねします。興味をひかれなかった理由は何ですか。
- 3、全線を通じて
  - 3-a 今回の禅文化学林全体を通じて、下記の当てはまるものにチェックをしてください。  
 とても有意義な企画だった  有意義な企画だった  どちらともいえない  あまり有意義な企画だとは思わなかった  全く有意義な企画とは思わなかった
  - 3-b 上記で「とても有意義な企画だった」「有意義な企画だった」とお答えした方におたずねします。具体的にどこが有意義でしたか。
  - 3-c 上記で「どちらともいえない」「あまり有意義な企画だとは思わなかった」「全く有意義な企画とは思わなかった」とお答えした方にお尋ねします。有意義ではなかったと思った理由は何ですか。
- 4、全国曹洞宗青年会では年に一回、今回のような禅文化学林をテーマを設定して企画・実施しております。また、そのほかにも、広報誌「そうせい」の発行、ホームページ「般若」の運営、各種ボランティア事業、青少年教化事業など様々な事業を実施しております。  
 今後、全曹青にたいし、このような企画をしてほしいとか、私の地域ではこのような企画があるが全曹青を通じて紹介してほしい。などご意見、ご提言があれば何なりとお気軽にお書き下さい。

以上



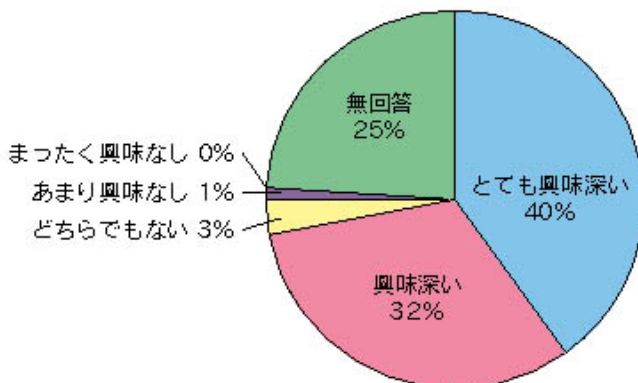
大谷哲夫氏と矢崎節夫氏の対談について

**第一** 一日目に参加者の方に協力していただき、アンケートを実施しました。アンケートは、会場に来て下さった全参加者におくばりし、全参加者約七〇〇人中、一〇三名人方々から貴重な御意見をいただくことが出来ました(アンケートの項目は上のとおり)。結果は左のとおりです。

まず、「1、大谷哲夫氏と矢崎節夫氏の対談」についてですが、全体の五十五%にあたる方が「とても興味深い内容だった」とお答えになり、「興味深かった」(三十九%)とあわせると九十四%の方が興味を示していたことになりました。



**具**体的な御意見としては、「我々が失ったもの、失いつつあるも、特に心の重要性を再認識させられ、これからの生き方に取り入れてゆくことを痛切に感じた」(六十二才男)、「言葉がもつむずかしさを金子みすゞさんの詩とかで少しながらも理解できたも思いました」(十八才男)、「人を感動させることばのすばらしさ、愛語についてよく理解できた」(六十六才男)、「学校職員を職としているが、若者達の現状に心を痛めている。言葉のかけ方、慈愛のある言葉、深く心にどめながら関わってほしい」(六十三才女)等、今回のテーマ「今、ことばで伝えたい」について皆様と共に考えることができましたという御意見を多数いただきました。中には、「僧侶の立場として、説教として一方的に押しつけるくせがあるのでは、相手の立場、両側からみ



映画「AIKI」の上映について

る事は大切、平易に仏教を説くのは両刃、先生がおつしやった様に調和が大切だと思う」(四十一才男)といった、私たち僧侶にとつて身が引き締まるような御意見も頂戴しました。又、「金子みすゞのすばらしさを知った、これから読んでみたいと思った」等、今回を契機として金子みすゞの詩に興味をもたれた方もおりました。

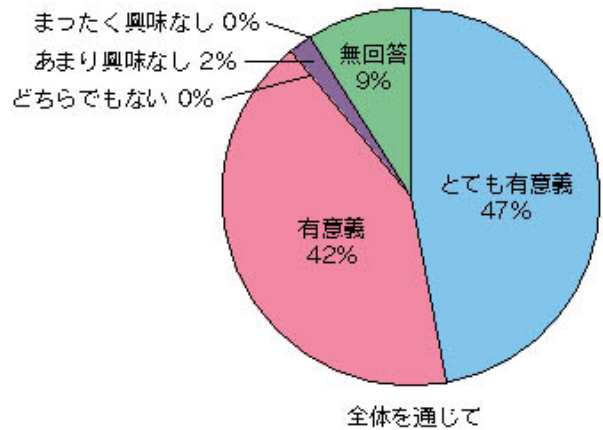
**次**に映画「AIKI」の上映についてですが、「とても興味深い内容だった」が四十%、「興味深い内容だった」が三十二%で、全体の七十二%をしめました。又、対談でお帰りになった方もいて、無回答も二十四%おりました。

## 具

体的な御意見としては、「どうしたらいいか解らない」からの出発に感動した」（五十四才女）、「この映画がいろんな人に勇気をつけることを確信します。もともと車イスの人が住みよい世の中になってほしいですね。」（年齢・性別不詳）といった、勇気づけられた、ノーマライゼーションの重要性を認識したといった御意見が多数ありました。又、「古武術A I K Iの相手を受け入れる、呼吸を学ぶ場面、あきらめない場面が良かった」（年齢・性別不詳）といった、合気道そのものに興味を持った方も少なからずいらつしやいました。全体として、「勇気づけられた」「生き甲斐を見つけていく過程に感動した」「生きていくことのすばらしさに感動した」等の感想が多くみられました。

「3、全体を通じて」ですが、「とても有意義な企画だった」が四十七%、「有意義な企画だった」が四十二%で、全体の八十九%の方が有意義な企画として評価して下さいました。

「日 常の中で見失っている『何か』を改めて考える機会となっている問題を考えるヒントがあった」（三十三才男）等、今回の企画が、自分や自己をとりまく社会について考え



るきっかけとなったという御感想や、「今回のテーマは時宜を得ていた」（六十才男）等、テーマについて評価していただいた意見もありました。又、一般の人にも広かれた講演会の開催のため（四十七才女）、「宗教くさくない点（六十八才男）等、僧侶以外の一般の方が気軽に参加できる企画の重要性について指摘される方もいました。反面、「このような企画が毎年開催されているとは知らなかった。もっと広報してほしい」（五十五才女）、「入場料をとって年に二回ぐらい開催すれば良い」（四十八才男）等、禅文化学林については全曹育の一般の方々

への周知度の低さ、広報の甘さを露呈した形の御意見もいただきました。更に「坊さんの聞く態度が悪すぎる」（六十六才男）、「若いお坊さんの態度はよかつたが、入口付近で先輩と思わしき方々が群がって、通行の邪魔になっていた。気付かずに居る無神経さに驚いた」（六十一才男）等、真剣に講演にのぞんだ方々にとつて、我々僧侶の態度がだらしく映ってしまったという残念な御意見も頂戴しました。身が引きしまる思いであります。

「4、全曹育に対して」の御意見は、「『そうせい』について読んでみたい」「ボランティアとして全曹育に参加したい」「坐禅会をしたい」「もっと通元禅師の教えについて学びたい」「寺子



屋のようなものをひらいては」等々、実に様々な御意見を頂戴いたしました。今後の活動の参考として、とても貴重です。これからも、このような形で、一般の方々、会員の方々と共に、有意義な活動を展開していきたいです。

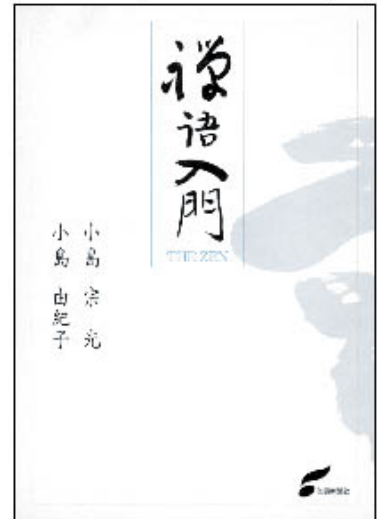
## 最

後に本誌「そうせい」について、一般の方を対象として、アンケートをとらせていただきました。質問項目は、ズバリ「『そうせい』を今回手にしてみ、今後も『読みたい』か『読みたくない』かであります。更に『読みたい』と答えた方には、『そうせい』に値段をつけるとすればいくらくらいか回答していただきました。結果は、『読みたい』が全回答数四十人中三十四人（八十五%）、「読みたくない」が六人（十五%）でした。また適正価格については、下は〇円から上は二千元までとバラエティーにとんでおりましたが、平均して一冊あたり約四六〇円ということでした。四六〇円も支払って読みたいといった方がいらつしやることには、編集部としてもうれしい限りですが、「内容が堅くなるしい」「難しい話題が多い」との御意見もあり、今後一般の方々にも親しまれる誌面作りを、より一層心がけていく必要性を実感しました。



そとせい図書館

禅語入門  
著者 小島宗光 小島由紀子



B6版、150頁、本体価格1,200円  
佐賀新聞社(出版部) ☎0952-28-2152)刊

日常生活にも多く取り入れられている「禅語」。ともすれば難解なそれらの「禅語」が、著者により平易・明解に語られている。

著者は佐賀県伊万里市の曹洞宗本光寺住職 小島宗光老師と由紀子夫人。住職が平成十一年一月から十二年三月まで五十回にわたって佐賀新聞シニア面に執筆。難しい禅の用語をやさしく解説し、連載された。

特選した五十の禅語の意識した見出しが、読者を引きつける。たとえば「禅那は「矛盾を包む」で、「知事」は「トッププサービスマン」。「問答」が「ほんとうの会話」で「面壁九年」は「ムダを学ぶ」となる。また筆者が描いた挿絵とともに、難解な語には注釈を付けている。さらに、由紀子夫人が「私が出会った禅の語」十二編を付け加えている。参照・「中外日報」(平成十四年四月二十五日)

今回ご紹介した「禅語入門」を抽選で10名様にプレゼントいたします。御希望の方は葉書に住所・氏名・電話番号・本誌をお読みにになった感想をご記入の上、〒063-0003 北海道札幌市西区西野7条9丁目7-1 養福寺内そうせい読者プレゼント係までご応募下さい。



# 「孤児院救いたい」

バンングラデシユ……  
創立した僧侶殺害され、物資なく

バンングラデシユ人民共和国で「ワンンプラヤ孤児院」を創立した仏教僧 ジャナディティ師が15年前に殺害され、孤児院の運営が危機に瀕している。神奈川県吉祥院の尖 秀雄老師が孤児院基金を創設し、救援を呼びかけている。

ワンンプラヤ孤児院はベンガル湾に面したチッタゴン市にある。仏教僧のジャナディティ師が15年前に創設し、孤児が共同生活をしながら学校に通っていた。

尖さんが一昨年4月上旬、文房具などを携えて3度目の訪問をした後、悲報を受けた。4月21日午前零時過ぎ、就寝中の師が20人近い集団に襲われた。53歳だった。

犯人はまだつかまっていらないらしい。尖さんは「1%ない宗教的少数派の仏教徒への迫害」と見ている。「孤児院は仏教徒以外の子もいる。無念です。」

孤児院は食べるだけで精一杯だという。4人の教師のうち1人は容疑者として投獄された。師に付き添っていた12歳の少年僧は、身の安全のために市内を転々としている。

尖さんが4月に孤児院を去る時、師はしみじみと話した。「自分について、何が起きるか分かりません。その時はよろしくお願ひします」

「ワンンプラヤ孤児院基金」は1口5千円、会費は年間1万円。問い合わせは吉祥院(0465・62・7737)へ。



故ジャナディ師(中央右)と抱き合う尖さん(同左)  
=尖さん提供

サイコセラピー

## 心理療法としての曹洞禅??

ゼン

### 宗教・哲学・心理療法

「……もちろん伝統的仏教国に住む仏教徒たちは仏教のことを心理療法などとは考えていない。かれらにとつてそれはあくまでも『宗教』の一形態なのだ。一方、ブツダの教えを学問的に研究している学者たちにとつて仏教はひとつの『哲学(思想)』なのだ。しかし、わたしはこういう仏教の見方は二つの極端であると考え。この二つの極端のどちらにも陥らない中道をとるとき、ブツダの教えをある種の『心理療法』としてとらえることができるのではないだろうか。わたしは仏教を『心理療法』として現代世界に紹介したほうがブツダのメッセージはより適切に理解されると思う。……」

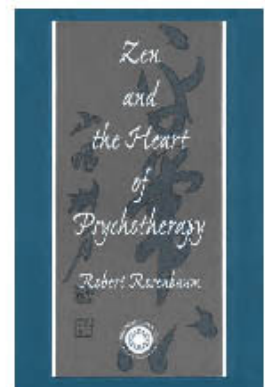
これは西洋で長年仏教を講じている或る南方仏教比丘が『仏教と心理療法』という題で書いた論文の一節です。仏

教をいわゆる「宗教」として見るならば教案主義(事実を無視して原理原則を拘り定規に適用する態度)・迷信・オカルトに墮する危険性があるし、仏教をいわゆる「哲学(思想)」として見るならわれわれの現実生活から遊離した単なる観念の体系に墮する危険性があるというのが彼の主張の背景にある批判です。彼の表現によれば、ブツダの教えの根本はあくまでも「精神的な痛からの解放」なのでそこからそれを「心理療法」としてとらえたほうがより適切であるというわけですが、これはかなり大胆な発言ですが、なるほど、ブツダが説いたとされる「四聖諦」はあきらかに診断・病因・予後・治療という医療モデルにもとづいたものですし、ブツダ自身みずからを「救済者」ではなく「治療者」とみなしていたようですから彼の「心理療法」としての仏教」という主張もあながち

無根拠な独断だとはいえないでしょう。むしろ、現代の西洋人に対して仏教を提示するにあたっては、それを「アジアの宗教」、「東洋思想の一形態」として向こう側において興味本位で眺めるだけのものでではなく、彼ら自身の人生や社会を創造的に変革していくうえで今でも(あるいは今こそ)充分に有効な「実践的教え」として主体的に受けとめてもらおうとするならば、この主張は一定の意義と説得力をもっていると思います。では、はたして仏教はどのような理論と技法を備えた心理療法なのでしょうか?それはひいては、現代において悩める人々をほんとうの意味で(単なる一時しのぎや気休め、まぎらしではなく)癒し救う力を仏教は持ち得るのかという根本的な問いかけにつながっていきま

す。

「我が心いまだ安からず」と言つて安心の追を求めてきた慧可を菩提達磨はみごとに安心へと導き得た(理想的心理療法?)のですが、われわれはいまそういう真にはたらかのある禅を現に持ち得ているでしょうか。われわれの奉じる曹洞禅をある種の心理療法として構想しなおすことがはたして可能でしょうか?それともそんなことは宗旨にそむく不適極まりない企てなのでしょう。か?わたし自身は試みてみるにじゆうぶん値するプロジェクトだと思つています。それがうまくいけば、おそらく従来の心理療法とは同列に論じられない独自の射程と深みをもつたものになり、西洋でこれまで発展してきた心理療法のコンセプト自体を逆に根底から批判しそれを大きく変えること



本文中にある『禅と心理療法の本質』表紙

### 心理療法としての

### 曹洞禅の可能性

になるだろうと推測しています。残念ながらこれまでのところ禅といても、鈴木大拙の影響力のせいかとあらかといえは臨済禅と心理療法の相同性を検討するような比較的研究（たとえば公案修行における見性と心理療法における洞察の比較など）が主流でしたし、そこでの禅のとりあつかいもほとんどが部分的・局所的なもの（たと

えば坐禅中の心理状態だけに注目して禅修行の全体を問題にしていない）にとどまっていた。わたしが待望しているのは両者の表層的な比較研究ではなく、曹洞禅のまるごと全体を一貫した心理療法のシステムとして深いところから「翻訳」しそれを実地に「検証」しようとする試みなのです。しかし、それはいまのところまだわたしの

狭いアンテナにはひっかかってきていません。

### これからの課題

ただつい最近、パークレー禅センターで曹洞禅を学んでいる一心理療法家が著したZEN AND THE HEART OF PSYCHOTHERAPY（「禅と心理療法の本質」）という本を手にししました。この本は彼が禅センターで読誦している『普勸坐禅儀』、『学道用心集』、『参同契』、『般若心経』、『宝鏡三昧』、『現成公案』などの経典について、自らの臨床経験や禅修行の実体験を交えながら、心理療法家として伝統的解釈から自由な立場でコメントを加えたものです。当然のことながら禅の老師や仏教学者の注釈とはたいへん違っていて、議論の当否は別にしてわたしにとっても面白く読めましたし、今後の参考にもなりました。

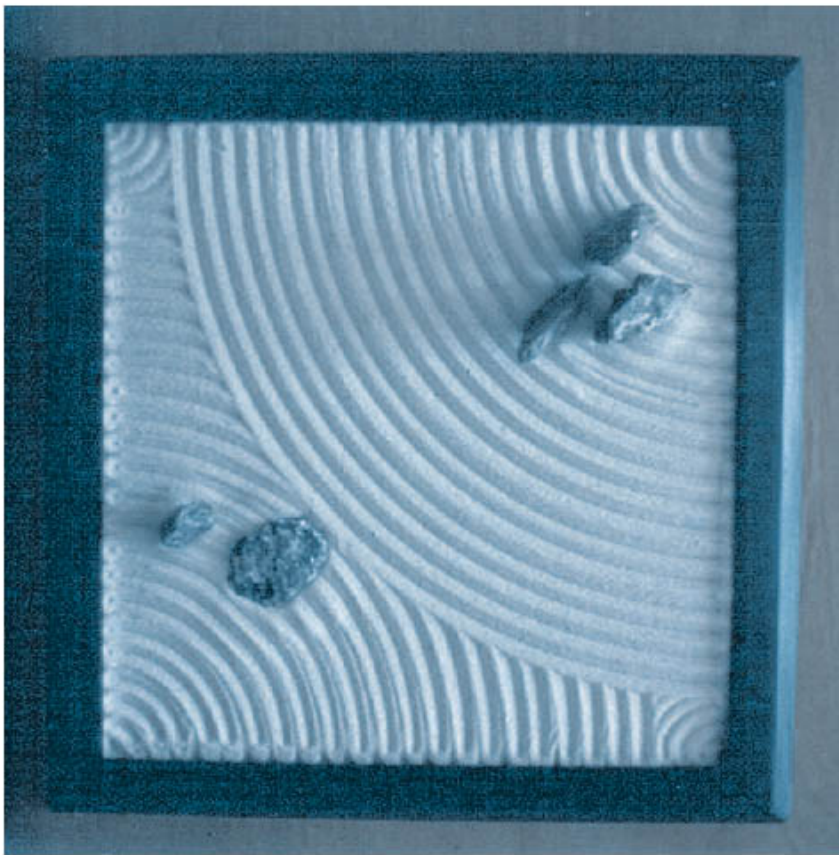
「身心脱落」とか「非思量」、「無所得」といった曹洞禅のキーワード群はいずれも心理療法的な文脈のなかで再解釈できるはずだという手応えをもっていますし（ただし、ここでは詳述できませんがわたしはそういう言葉を心理主義的には解釈しません。単なる心理の問題でないからこそ療法的に意義

があるのだと考えています）、道元禪師が禅修行の心得・用心として説いていることはすべて心理療法の実践論として読み替えることができるのではないかと思っています。そういう予想を確かめる作業はわたし自身の今後の課題です。それが単なる観念の遊戯言葉遊びに終わらないように、また前回書いたような禅の矮小化につながらないように自戒しなくてはなりません。

わたしの思うような結論に行き着くかどうかはともかく（まったく徒労に終わる可能性は充分にある。しかしそれはそれで無駄にはならない）、こういう問題設定は現代において曹洞禅に肉迫する新鮮な視角のひとつではないかと思うのです。それに、幸いアメリカはこういう企てがおおいに歓迎されるところですし、関心を共有する同志も多いはずですから、そういう地の利を生かして自分なりのやりかたとペーすでこのテーマを追求していくつもりです。

文・藤田一照

1954年、愛媛県生まれ。1988年、米国マサチューセッツ州ワヴァレー禅堂の住持として活動中。現在在住。著書に『新こころのシルクロード』（共著、佐賀新聞社刊）、『証言』に『タイク・ナット・ハン』『禪への鍵』（春秋社刊）、『スティールマン・パチエラー』『ダルマの素顔』（四季社刊）等がある。



箱庭療法に用いられた禅のイメージ

# ディスカバー

## ヒューマンライツ⑥

### —基本的人権(1)～歴史的背景—

本コーナーでは、今まで様々な人権に関わる問題を取り上げてきました。

今回からは、そもそも基本的人権とはどういうものなのかを、総論的に検討していきます。中でも非常に重要な「表現の自由」を素材として、話を進めていきます。

#### はじめに

現在、国会で「人権擁護法案」「個人情報保護法案」「青少年有害社会環境対策基本法案」の3法案（いわゆるメディア規制関連法案）が審議されています。同法案に対しては、テレビや新聞などのマスメディアから、「報道の自由や取材の自由に制約が加えられる危険があり、日本国憲法21条によって保障された「表現の自由」を侵害するだけでなく、国民の「知る権利」をも侵害する危険がある」などといった厳しい批判が浴びせられています。

ここでは右法案の内容について意見を述べるつもりはなく、メディアの批判の当否についても検討するつもりありません。ただ、メディアがいう「表現の自由」「知る権利」とはどういう権利なのか、また、現在人々が一般的に使う「基本的人権」とはどのような歴史的背景を持つものなのかについて述べていきたいと思いません。

#### 基本的人権の歴史的背景

基本的人権とは、信教の自由、職業選択の自由、裁判を受ける権利などの個別的人権を総称する言

業です。

ここにいる人権の原型は、イギリスのマグナ・カルタ（一二二五）、権利請願（二六二八）、権利章典（二六八九）にまでさかのぼることが出来ます。これらの文書で宣言された権利ないし自由は、いずれもイギリス人が歴史的にもついていた権利ないし自由（貴族階級の特権）と考えられており、人間として当然に有する権利という意味の人権ではありませんでした。しかし、当時の国王の絶対主義的権力による侵害の前に国民の権利を防衛し、保障することを狙いとしていた文書である点で、近代諸国の人権宣言の祖先と考えられています。

これらの文書で言う「権利」が広く国民の権利ないし自由として保障されるためには、ロック（一六三二―一七〇四）やルソー（一七二一―一七七八）などの説いた自然権の思想及び社会契約の理論によつて新たに基礎付けられる必要がありました。この思想によれば、①人間は生まれながらにして自由かつ平等であり、生来の権利（自然権）を持っている、②その自然権を確実なものとするために社会契約を結び、政府に権力の行使を委任する、③政府が権力を恣

意的に行便して人民の権利を不当に制限する場合には、人民は政府に抵抗する権利を有する、ことになりす。

このような思想に支えられて、一七七六年から一七八九年にかけてアメリカ諸州（ヴァージニア、ペンシルヴェニア、メリーランド等）の憲法、一七八八年のアメリカ合衆国憲法、一七八九年のフランス人権宣言、一七九一年のフランス第一共和制憲法などが制定されました。例えば、ヴァージニア憲法は、その一条で「すべての人は、生来等しく自由かつ独立しており、一定の生来の権利を有するものである。これらの権利は、人民が社会を組織するに当り、いかなる契約によつても、その子孫からこれを奪うことのできないものである。」と定めています。また有名なフランス人権宣言も、「人は、自由かつ権利において平等なものととして出生し、かつ生存する。社会的差別は、共同の利益の上のみ設けることができる」（一条）と定め、自由と平等という人権の根本理念を宣言しています。

#### 人権宣言の普及

このような人権思想は、19世紀以降、特にフランス人権宣言を通



じてヨーロッパ諸国に広まりましたが、そこでは国家に先立つ自然権としての「人間」の権利ではなく、あくまでもフランス人やドイツ人などといった「国民」の権利を保障するものが多い状況でした。19世紀において初期の自然権的人権思想が衰退していった背景には、合理主義や社会主義の思想が発達し、18世紀の自然法思想にとつて代わったことや議会制が確立し、議会（法律）による権利の保障という考え方が有力になったことなどが挙げられます。

しかし、第二次大戦におけるナチズムやファシズムの苦い経験によつて、初期の自然権的人権思想が見直されるようになりました。戦後は、「国民」の権利を保障する人権思想に代わって、人間が人

Article 19:



Everyone has the right to freedom of opinion and expression.

### 人権宣言の社会化、国際化

問であることに基づいて当然に有する権利(自然権)という人権の概念が一般的になったのです。それとともに、右に述べたような人権の「(議会が制定した)法律による」保障という従来の考えを超えて、人権は法律によつても侵されてはならないという「法律からの」保障が強調されるようになりました。

さらに、19世紀の人権宣言が自由権(言論の自由、信仰の自由など)を中心とする自由国家の人権宣言であつたのに対し、20世紀以

降の人権宣言は、社会権(所有権、生存権、教育を受ける権利など)をも保障する社会国家の人権宣言となりました。

その最初の典型は一九一九年のワイマール憲法(ドイツ)です。ワイマール憲法は、「経済生活」の章において、「経済生活の秩序は、すべての人間に値する生活を保障することを目的とする正義の原則に適合しなければならない」として、社会的・経済的弱者の保護と、そのための国家の積極的活動の義務を定め、他方で、「所有権は義務を伴う。その行使は、同時に公共の福祉に役立つべきである」として、財産権がもはや不可侵の権利ではなく、社会的に拘束を負つたものであることを宣言しています。

それ以降、世界各国の憲法は、公正な配分に重きを置く実質的な平等主義に基づいて、多かれ少なかれ社会権の保障を取り入れ、社会国家として国民の福祉の向上に努める義務を国家に課すようになっていきます。

さらに、人権思想の進展に伴い、人権を国内的に保障するだけでなく、国際法的にも保障しようとする傾向が強まってきました。とりわけ第二次世界大戦後におい

Article 16:



Men and women of full age, without any limitation, have the right to marry and to found a family.

て、国際平和への動きとともに、人権の国際的保障の試みが活発化しました。その代表的なものが世界人権宣言(一九四八)であり、その後、国際人権規約(一九六六)、難民の地位に関する条約(一九五四)、女子差別撤廃条約(一九八〇)、児童の権利に関する条約(一九八九)などと続き、現在に至っています。

### 最後に

以上見てきたとおり、一言で「人権」と言つても様々な種類があり、それぞれの人権にはそれぞれ歴史的背景があります。今後社会的変化や国民意識の変化に応じて新しい人権が出てくる可能性は十二分にあります。次回からは、このような人権の中でも中心

的な立場にある「表現の自由」や、新しい人権とされている「知る権利」などについて詳しく述べていきたいと思ひます。

#### 〈参考文献〉

- ・ 宮沢俊義 『法律学全集4 憲法II』 (株式会社有斐閣)
- ・ 声部信喜 『憲法新版』 (株式会社若波書店)

文・見野彰信  
早稲田大学法学部。民事・刑事・家事など法律問題一般を扱う。野田信彦法律事務所(札幌市)所属。

修復工事から新築工事まであらゆる地震(=対地震)工事に最新技術\*で対応しております。日本古来の伝統の技を伝承する、魚津の設計と施工。

\*大本山總持寺橋台耐震改修工事で採用させて頂きました。

神社・仏閣専門建築  
**株式会社 魚津社寺工務店**  
〒454-0004 名古屋市中川区西日置二丁目12番20号  
TEL(052)331-3080・0854 FAX(052)332-3540



# 曹洞宗青年会東北地方集會 秋田大会開催

「この一日の身命は……」自殺の問題が問いかけるもの

11月15・16日、秋田キャッスルホテルを会場に東北地方集會・秋田大会（秋曹青会長・袴田俊英実行委員長）が行われました。

秋田曹青では本県が「自殺率全国一」という状況を憂い、僧侶にとっても看過できない問題として前年よ



り課題としております。全国的にも自殺が急増し、社会問題化している中での今大会でしたが、当日は全曹青池上会長・山口副会長はじめ県内外の来賓各位御臨席のもと、各県の青年会員、一般を含め八〇〇名のご来場をいただき、盛會裡に円成となりました。

一般公開のシンポジウムでは、基調講演として作家の五木寛之氏より「日本人のこころ」と題して、特に慈悲についての示唆に富んだお話をいただきました。引き続きパネルディスカッションでは、門脇允元老師（初代全曹青会長・仙台「いのちの電話」理事長）、および地元パネラーの各氏から貴重な提言がなされました。門脇老師には翌日の「随聞会（ずいもんえ・宗侶対象の研修会）」の講師もお務めいただき、二日間に関わり「自殺」の問題を通じて、仏教



の立場からあらためて「生きる」とは、「いのち」とは何かを考える機会となったものと存じます。全曹青地協、各県曹青各位の多大なるお力添えにあらためて感謝申し上げます。（詳細は [www.sossei-doktanet](http://www.sossei-doktanet) をご覧ください）

## 千僧法要



去る10月19日、奈良東大寺において「仏法興隆祈願千僧法要」（主催・東大寺、協力・全日本仏教育年會）が催されました。

東大寺では本年が大仏開眼一二五〇年の兼年に当たり、10月15日から19日での五日間、午前・午後の二座ずつ各宗派による慶讃法要が執り行われました。19日は一連の慶讃法要の最後を締めくくる結願日で、午前中は東大寺式衆による論議法要、午後からは全日仏曹を中心約七〇〇名の出仕僧参加による「仏法興隆祈願千僧法要」が行われました。曹洞宗からは、各地域仏曹からの参加も含め、約30名が参加しました。

前日まで秋晴れの晴天に恵まれた慶讃法要ですが、最終日の19日はあいにく、朝から小雨交じりの天気となり、大仏殿前広場の屋外特設会場にて行われる予定の慶讃法要も急遽、



# 第25回中国曹洞宗青年会連絡協議会

## 広島大会のご報告

中国曹洞宗青年会連絡協議会（会長 森山容光）は、さる11月21日（木）22日（金）、広島市ホテルセンチュリー21広島を会場に広島大会（実行委員長 高原淳尚）を開催した。開会式では来賓に宗議会議員壇上尚道老師、中国管区教化センター統監 松原徹心老師、地元曹洞宗広島県宗務

所所長 鈴木章純老師を、さらには全国曹洞宗青年会より会長池上幸秀師、副会長本土一真師、同じく山口英寿師をお招きした。

開催テーマを平成14年が道元禪師七百五十回大遠忌の年に当たることから、「古きを慕い、今に生きる」とし、初日を一般公開講座、第二日を会員研修講座という設定で進められた。

一般公開講座では、講師に東京相田みつを美術館館長相田一人先生をお迎えし、「父を語るく相田みつと道元禅」という題名で

ご講演いただいた。相田みつを氏が道元禅と出逢い、だれにでもわかりやすい作品を仕上げている過程をビデオやOHPを利用して、感動的に約二〇〇名の聴衆に伝えられた。

二日目は、冒頭で大遠忌法要として参加者全員で「八大人覺」として参加者全員で「八大人覺」



を説講した。会員研修講座では、駒澤大学河村孝道先生による「道元禅師を慕うく慕古心く」という題名で道元禅師の慕古心について講演いただいた。二日間を通して中国管区青年会会員76名の参集をいただいた。ちなみに次年度は岡山大会が予定されている。



参加団体は左記の通りです。  
南都二六会・天台仏教育年連盟・金峯山青年僧の会・全眞言宗青年連盟・全国浄土宗青年会・融通念佛宗青年会・埼玉県仏教育年會・神奈川県仏教育年會・大阪府仏教育年會・（社）神戸青年仏教徒會・和歌山県青年僧の會・全国曹洞宗青年會・その他各宗出仕僧  
（順不同）

大仏殿内に会場が変更されました。全国各地から集まった参加者は、金峯山青年僧の会による法螺貝の吹奏を先頭に小雨の降る中、南大門から大仏殿までの三〇〇メートルを整然と行列を行い、



大仏殿内では須弥壇上に整列し、天台仏育連盟の声明を中心に西大寺の献茶・献花、越前米の奉納等も取り入れた法要を厳修致しました。世情定まらない今の日本では有りますが、参加した僧侶達は、一二五〇年間、世の移り変わりを見護られてこられた東大寺大仏のお膝元に相乗い、我々青年僧の果たすべき役割とは何かと大仏様に問い、この国の行く末の安泰ならん事を宗派の枠を超えて共に祈りを捧げました。

# 賛助会員御芳名

平成14年9月  
～14年11月

3037526287222130774039422275949211512111折 ***** *****	3063032307116294319332317101610211 ***** *****	3079703234232324 ***** *****	40323737323032522100776621911211110227873617 ***** *****
2564555252403919916.621391417715034 ***** *****	山302216412121179312 ***** *****	40933210767666150132 ***** *****	1610483121627665150473042 ***** *****
9666393837366 ***** *****	三2229191616353 ***** *****	山404323775 ***** *****	山404323775 ***** *****
425425山10002284934332322178 ***** *****	63山16131105 ***** *****	山2126.64134 ***** *****	山30083775239 ***** *****
K3837875354464226222 ***** *****	山1001大1001 ***** *****	山1001大1001 ***** *****	山1001大1001 ***** *****
323035213831 ***** *****	山155421 ***** *****	山2727322104752 ***** *****	山2727322104752 ***** *****
26190703021030161666041512822132 ***** *****	山42464393.37747270303243433032212125 ***** *****	山42464393.37747270303243433032212125 ***** *****	山42464393.37747270303243433032212125 ***** *****
63361428595421423山17322232山232229 ***** *****	山14413107634山18 ***** *****	山14413107634山18 ***** *****	山14413107634山18 ***** *****

御協力誠に  
ありがとうございました。

## 全国晋洞宗青年会 平成14年度第1次補正予算書

平成14年10月29日提出

収入	予算現額 30,400,000円	今回補正額 1,000,000円	補正後予算額 31,400,000円
支出	予算現額 30,400,000円	今回補正額 1,000,000円	補正後予算額 31,400,000円

項目	予算現額	今回補正額	補正後予算額	備考
会費	1,451,500	0	1,451,500	500×2903名
賛助会費	12,000,000	1,000,000	13,000,000	
事業助成金	15,000,000	0	15,000,000	事務所より
協賛金	1,000,000	0	1,000,000	「そうせい」広告料
雑収入	29,697	0	29,697	
前年度繰越金	918,803	0	918,803	
合 計	30,400,000	1,000,000	31,400,000	

項目	予算現額	今回補正額	補正後予算額	備考
事業費	19,700,000	500,000	20,200,000	
研修費	200,000	0	200,000	禅の薈い中央研修会等
総合企画事業経費	3,000,000	0	3,000,000	禅支化学林を言む
広報費	12,500,000	500,000	13,000,000	一部カラーページ導入
青少年教化研究費	1,000,000	0	1,000,000	
ボランティア研究費	1,000,000	0	1,000,000	
授戒会研究費	1,000,000	0	1,000,000	
パソコン通信研究費	1,000,000	0	1,000,000	
運営費	10,850,000	450,000	11,300,000	
会議費	8,700,000	0	8,700,000	会議費、交通費等
事務通信費	400,000	0	400,000	事務通信費
渉外費	1,500,000	0	1,500,000	全日修養、賓客大寮等
雑費	50,000	450,000	500,000	修学句会(賛助会費分)
予備費	50,000	50,000	100,000	
合 計	30,400,000	1,000,000	31,400,000	

全国晋洞宗青年会  
会長 池上 幸秀  
会計 橋本 昭弘



読者の声

「そうせい」第百十九号をお送り頂き有難うございました。スペイン「宗教者間の対話」は穏やかな会話の運びの中に、日本人をはじめ地球上の各民族、各国内において、宗教に基づく人間愛の自覚と実行こそ、真の世界平和の始まりだという原理を見事に描出させていると感じます。そして、それを表現させ得られた曹首会長の若いエネルギーに感動しました。

皆様方の益々のご清栄、ご発展をお祈りいたしております。

名古屋 小田 嘉男

「そうせい」に対するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

あて先 〒699-1062 4

鳥根県藤川郡妻川町

上直江199 妙相寺内

そうせいサロン係

遠山無限

指摘する。何故に兵法を好きになれないのか、それは大方の武士がいかに深く死ぬかというネガティブな考え方が主流となったことが考えられる。逆に生き抜く

二年前の初夏の頃、熊本曹首会長の磯田浩隆師の案内で、熊本郊外の宮本武蔵が「五輪書」を書き上げたという岩戸観音堂の庭園へお参りした。その空間には今でも武蔵の気迫、残像のようなものが漂っていたのを記憶している。さて、「五輪書」の「地の巻」で武蔵は、当時の武士は天下泰平の世に移り、兵法の極意をわきまえていないと嘆いている。その理由として、武士が心から兵法を好きになつていない、兵法を習得することが仕事なのに、それを嫌っている。仕事だからか、それとも怠け者が多いのかが指摘する。何故に兵法を好きになれないのか、それは大方の武士がいかに深く死ぬかというネガティブな考え方が主流となったことが考えられる。逆に生き抜く



という明るい希望に向かって仕事に向き合えば、仕事が好きになり面白くもなる。自分の力だけで生死をかけて闘い、生を迫及し続けた武蔵の兵法論理は、組織に依存しきつて安易な気持ちで物事に取り組んでいる現代人を覚醒し、同時に私たちが青年僧の安穩とした日常底に警鐘を打ち鳴らす。私たちが僧侶としての生き方を好きになり、日々の行持、作務、年回法要、葬儀、役員会や梅花講など一回一回の法務職務を生死をかけた闘い、実戦として向き合えば、その経験こそはやがて自ら僧侶としての確固たる自覚と自信を生み、巡って組織や社会に貢献する逸傑を育てる。「空は善有り、悪無し。習は有なり。利は有なり。道は有なり。心は空なり。」

武蔵は「五輪書」の最後をこのように結んでいる。全国曹洞宗青年会 会長 池上 幸秀

エッキング

捨てればゴミ 活かせば 薬膳

かぼちゃの種のあえ物

リノール酸で動脈硬化予防、低血圧改善の漢方薬にも

中国を旅していると、おやつにかぼちゃの種を食べている光景をよく見かけます。かぼちゃの種は、ごまやアーモンドと同じ仲間の種実類のため、脂肪を多く含んでいます。特にリノール酸が豊富で、重量の約半分を占めているため、血中コレステロール値を下げて動脈硬化を予防する働きが期待できます。また、漢方では南瓜仁（ナンカニン）と呼ばれ、低血圧の改善などに役立つと言われていいます。緑の皮に包丁を入れると、鮮やかな黄色い実があらわれ、種もいっぱい詰まっています。種がはち切れそうなくらいにふくらんでいるのが、おいしいかぼちゃです。

実の方は、抗酸化作用のあるβ-カロチンを多く含み、エネルギー源となるでんぷん質やストレス対策に必要なビタミンC、若返りのビタミン・ビタミンEも豊富で、なかなか人気の高い野菜です。

しかし、種はほとんど捨てられる運命のようですが、ひと手間かければおいしく食べられ、独特の風味が味わえます。

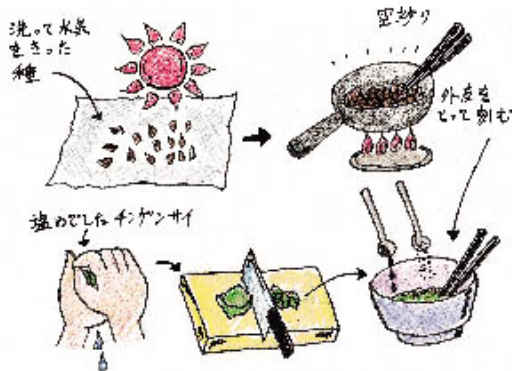
◆材料◆

かぼちゃ／1個、チンゲンサイ／1株、砂糖／小さじ2分の1、しょうゆ／小さじ3分の1

◆作り方◆

- ①かぼちゃ1個分の種を、周りの綿をよく洗ってとり、ザルにあげる。
  - ②水気をぎってから、新聞紙に広げて4～5日干す。
  - ③種の薄皮がしわしわになったら、空炒りして、外皮をとり、種の中をとり出す。（このまま食べれば、ビールのおつまみにもよい）
  - ④チンゲンサイは塩ゆでして、絞り、刻みよく水気をきる。
  - ⑤③を粗く刻んだものと、④と、砂糖、しょうゆをあえる。
- \*チンゲンサイの代わりに、ほうれんそうや小松菜でも可。また、ごまあえのように、種をすり鉢ですつてもよい。

（管理栄養士・小池すみこ）



編集室敬白

最近若い女性の間で乗らなくてフリットとした「巨匠がブームだ」という。今や化粧品店には「フリット」カラーゲンや様々な栄養素配合の口紅が所狭しと並んでいる。乗らなくてみずみずしい唇が世の男性のならず女性をも「癒して」くれるそう。なるほどTVのCMでも癒し系といわれる女優が引っぱりだこになっている。

本誌「環境問題のスピリチュアルな視座」の正木先生によれば「癒し」は現象世界を認識する前段階にすぎないと言う。「無明」の中でフレイクにすぎない「明かり（安心）」を求める人々のなんと多いことか。

しかしこうした現象は我々仏教者としては大いなる可能性を感じる。同じく本誌「禅インタナショナル」執筆者 藤田一照師が「曹洞禅を癒し・救いを求める人々のための心理療法」として新たに構想しなおす「可能性」について述べられていたことが興味深い。

①

# 静岡県第一宗務所青年会



## DATA

発足 平成5年  
 会長 渡辺 宗徳  
 副会長 大石 善道  
 浅野 正光  
 事務局 松永 寛道  
 会計 中川 雄章  
 会員97名



当会ホームページアドレス <http://sizusosei.com>

**静岡** 同県第一宗務所青年会を紹介しま  
 す。

私共の所属する宗務所は県中部（東  
 は御殿場市から西は島田市まで）に位  
 置し、寺院は三百八十五ヶ寺を数えま  
 す。そのため、東部・中部・西部に区  
 分され、各地区の四十歳までの青年宗  
 侶によって構成され、現在九十七名の  
 会員が活動を行っております。

**当** 会の組織としては、研修・ボラン  
 ティア・会則・ホームページの各  
 委員会があり、各々の活動内容は次の  
 通りです。

研修委員会では、会員より広く意  
 見・希望を募り、年二回以上の研修会  
 を企画し運営しています。現在は梅花  
 流師範・布教師の有資格者の現役会員  
 を講師として「布教手段の実践」のテ  
 ーマにて会員相互の研修を行っており  
 ます。

会則委員会では会員の増加や緊急時  
 の支援等、対外活動に對しての円滑な  
 運営を目指し、現実に即した観点で話  
 し合いを重ねております。

又、ボランティア委員会においては  
 「地域社会との連携」をテーマに、S  
 VAの協力のもと、まず第一歩として  
 「アジアの子供達に絵本を届ける運動」  
 をおこない、二年間で現地の言葉に翻  
 訳した二百冊の絵本を届けることがで  
 きました。

本県は発生が危惧されている東海地  
 震の震源域にあたる為、阪神淡路大震  
 災を教訓として、我々に来る身近な  
 ボランティア、「初級救急救命講座」

を消防署指導のもと、開催して  
 会員の防災意識向上を図ってお  
 ります。

ホームページ委員会では平成  
 十四年より試験的にHPを開設  
 し、本年四月より当会設立十周  
 年記念事業の一環として運営す  
 る予定です。どうぞ皆様、ネッ  
 トサーフィンの途中に気軽にお  
 立ち寄り下さい！(アドレスは  
 別枠に記載しています)

平成十一年には発足以来の宿  
 願でありました授戒会を管内東部の御  
 寺院様、OBの方々の協力のもとに開  
 催することが出来ました。また、各地  
 の授戒会にも会員研修として数か年に  
 わたつて随喜させて頂いてます。その  
 他、「禅のつどい」や借堂安居予定者  
 に對しての感儀点検・心得等を未来の  
 青年会員に手とり足とりの指導をおこ  
 なっております。

さて、仏教は慈悲と自覚の宗教です。  
 今日の日本は先の見えない不安に



より人々が各々の主体性を求めて悩ん  
 でいるのではないのでしょうか。

私共は「仏道をならふといふは自己  
 をならふ也」の遺元律師のお示しを旨  
 とし、会員各々の実参実究を通して見  
 識の向上を図り、ひとりの僧侶・ひと  
 つの寺が何をおこない、考えてゆける  
 のかを、会として世間に関わらな  
 らず、奉仕をおこないたいと考えており  
 ます。

**本**年、平成十五年は当会設立十周年  
 の節目の年であります。現在、十  
 周年記念事業として「ブックバンクプ  
 ロジェクト（移動図書館で使用する図  
 書箱を送る運動）」をおこない、一人  
 でも多くの子供達に、より多くの本に  
 接する機会を贈ろうと会員各寺院に手  
 作りの募金箱を設置し托鉢等の募金活  
 動をおこなっています。関係各位の御  
 理解・御協力のもとに会員全ての願  
 いとして是非とも成就させたいと願  
 っております。

よろしく御願いたします。



発行所 全国書道青年会 〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 書道宗務所内/発行責任者 池上 幸秀 編集責任者 河村 康秀 編集委員 千葉 琢道・大熊 真隆・中町 天壽・奥山 千成・東井 千明  
 本誌編集部へのお問い合わせ先 〒063-0037 北海道札幌市西区西野7条5丁目7-1 養福寺内 ☎(011)661-0611/全国紙ホームページ <http://www.sizusei.com> 印刷所 株式会社中央デザイン/定価 100円